

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成24年11月8日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科人間健康科系専攻

職 名・学 年 助教

氏 名 山 口 琴 美

助成の種類	平成24年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成	
研究集会名	第20回世界産婦人科連合会	
発表題目	Striae gravidarum and QOL in Japanese pregnant women.	
開催場所	イタリア・ローマ	
渡航期間	平成24年10月 6日 ～ 平成24年10月14日	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()	
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000円
	使用した助成金額	200,000円
	返納すべき助成金額	0円
	助成金の使途内訳	日本(京都)からイタリア(ローマ)までの往復交通費と宿泊費、現地滞在費等の一部に充当
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 欧州での開催のため、渡航費や滞在費が高く、参加することが難しいと考えていましたが、貴財団の助成を受けることができ、参加することが可能となりました。また、助成の申請や手続きについても詳細な説明があったため、非常にスムーズに申請を行うことができました。助成を受けた後のシステムもスムーズであり、特に改善すべき点はないと感じます。	

【成果の概要】

京都大学大学院医学系研究科人間健康科学系専攻
助教 山口琴美

公益財団法人京都大学教育研究振興財団による平成24年度国際研究集会発表助成を受け、平成24年10月7日から12日にイタリア・ローマで開催されたXX FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (第20回世界産婦人科連合会)において、「Striae gravidarum and QOL in Japanese pregnant women」の題目のポスター発表を行わせていただくことができました。

今回参加させていただいた XX FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics を主催する International Federation of Gynecology and Obstetrics (FIGO: 世界産婦人科連合) は、1954年に設立され、産科婦人科領域における高い知識や技術を有する専門家や、専門団体が所属する国際団体です。そして、高度かつ最先端の情報や技術について学び、情報交換の場を目的として3年ごとに国際的な学術集会を開催しています。前回2009年では、南アフリカのケープタウンで開催され、次回2015年では、カナダのバンクーバーで開催予定です。本学術集会では、世界各国より医療分野で活躍されている産科婦人科医師だけでなく、産科婦人科医療に関わるコメディカル方々も多く参加されていました。私自身も助産師という産科婦人科領域を専門とする立場から参加させていただきました。そして、様々な分野で活躍されている先生方の教育講演や講習が企画され、研究者による発表も数多くありました。

私の研究テーマである「妊娠線の発生メカニズムの解明と予防法の確立」にとって、本学術集会は、最先端の知見を得ることができ、今後の研究活動への多大なる一助を担うことができました。特に今回は、「Striae gravidarum and QOL in Japanese pregnant women」(日本人妊婦における妊娠線とQOL)の題目のポスター発表による研究成果を報告することにより、様々な意見交換の場となり、今後の研究を遂行する上で、多くのご助言をいただくことができました。今回得られた様々なご意見は、大変貴重で今後の研究活動を遂行する上で有意義な経験や一助になると考えています。

企業展示においても妊娠線予防に関するクリームが試供品として提供され、妊娠線研究についてお話を聞く機会にも恵まれました。そして、妊娠線は国際的な研究テーマであることを再認識することとなりました。しかし、新薬を紹介する企業展示においてタッチパネルを使い新薬について学ぶというものが、ID登録をする際に「JAPAN」という国選択の項目がありませんでした。このような国際学会の場において、日本の存在について考えさせられました。

今回の参加により国内の学会とは異なり、国際学会という場でのみ体験できる貴重な経験を数多く得ることができました。特に、産婦人科領域における「女性と健康」、「アフリカにおける人工流産」、「早産の予防」など多くのセミナーやセッションが開催され、直接的に研究テーマに関わる分野だけでなく、助産師という医療従事者として必要な知識を多く得ることができ、今後の研究や教育に対して大変有益なものとなりました。

末尾となりましたが、学会参加へ助成をいただきました公益財団法人京都大学教育研究振興財団には心より深謝致します。今後も支援に恥じないよう、研究や教育に全力を尽くしていきます。